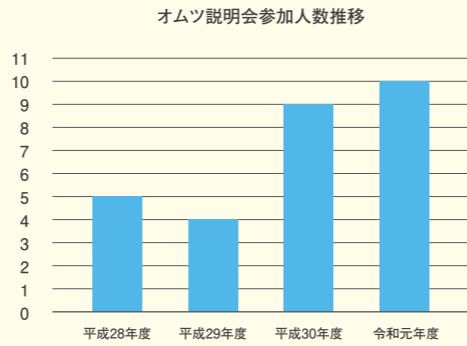


# 数字でみる錦海リハ

## ご自宅での排泄介助の不安軽減を目指して!

当院ではオムツフitterによる家族向けのオムツ説明会を平成28年度から始めました。平成28、29年度は年1回、「介護の日」に開催していましたが、参加した家族より好評であったため平成30年度は年2回、令和元年度は年4回開催しました。実際にオムツの装着体験をすることで、オムツを当てる側、当てられる側の気持ちを理解してもらうことを目指しています。興味のある方はご参加お待ちしております。



## 専門雑誌・書籍掲載

- 角田賢(医師・病院長)  
リハビリナースに求められる役割 回復期リハ病棟の患者さんって?  
リハビリナースVol13 2020No.3、メディカ出版、2020.05.10
- 福田由美子(看護師)  
リハビリナースに求められる役割 病棟で重症化させないための支援  
リハビリナースVol13 2020No.3、メディカ出版、2020.05.10
- 今田健(共同)(理学療法士・リハビリ技術部課長)、他  
Quadriceps Thickness and Echo Intensity Predict Gait Independence in Individuals with Severe and Mild Hemiparetic Stroke  
European Neurology Vol.83, no.2、2020.05.25
- 角田賢(医師・病院長)  
錦海リハビリテーション病院  
鳥取県西部医師会会報No.203、鳥取県西部医師会、2020.09

## 外部講演

- 角田賢(医師・病院長)  
2020年度診療報酬改定～これからの医療・介護連携～  
第9回ケアマネジャー向けセミナー、錦海リハビリテーション病院主催、2020.06.03、オンライン研修会
- 神坂綾(社会福祉士)  
今さら聞けない!『認定社会福祉士って何?』『認定社会福祉士取得のすゝめ』  
2020年度第1回(2019年度第2回-延期開催-)西部地区研修会<オンライン研修会>、鳥取県社会福祉士会主催、2020.06.20、オンライン研修会
- 木佐高志(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)  
認知症高齢者への食事支援について～居宅サービス計画における訪問リハSTの活用を通して～  
第10回ケアマネジャー向けセミナー、錦海リハビリテーション病院主催、2020.07.13、オンライン研修会
- 角田賢(医師・病院長)  
脳卒中の理解  
新人研修会 オンデマンド配信、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2020.07.27-08.31、オンライン研修会
- 上村順一(理学療法士)  
よりよい在宅での終末期とは何かを考える  
第11回ケアマネジャー向けセミナー、錦海リハビリテーション病院主催、2020.08.17、オンライン研修会
- 竹内茂伸(言語聴覚士・副院長)  
回復期リハビリテーション病棟を基点とした 医科歯科協働による「口から食べる支援」～鳥取県西部圏域における地域連携を交えて～  
第57回日本リハビリテーション医学会学術集会 合同シンポジウム22、日本リハビリテーション医学会主催、2020.08.19-22、京都府(ハイブリット学術集会・オンライン講演)

- 三好綾(言語聴覚士)  
コミュニケーション支援技法 I  
鳥取県失語症者向け意識疎通支援者養成研修、鳥取県・山陰言語聴覚士協会主催、2020.09.05、鳥取市
- 北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)  
身体介助の方法  
失語症者向け意思疎通支援者養成研修、鳥取県・山陰言語聴覚士協会主催、2020.09.12、松江市
- 平野正樹(作業療法士・リハビリ技術部主任)  
身体介助の方法  
失語症者向け意思疎通支援者養成研修、鳥取県・山陰言語聴覚士協会主催、2020.09.12、松江市
- 松原岳洋、木村誉(理学療法士)  
身体介助の方法  
鳥取県失語症者向け意思疎通支援者養成研修、鳥取県・山陰言語聴覚士協会主催、2020.09.16、鳥取市
- 三好綾(言語聴覚士)  
外出同行支援 外出同行支援実習  
鳥取県失語症者向け意識疎通支援者養成研修、鳥取県・山陰言語聴覚士協会主催、2020.09.19、鳥取市

## 学会発表

- 佐藤玲子(言語聴覚士)  
高齢の嚥下障害患者に対するエネルギー摂取量追加が回復に奏功した例  
第21回日本言語聴覚学会、2020.06.19-20、茨城県(誌上開催)
- 長崎正義(理学療法士)  
地域住民寄り合いの会において、世話人へ理学療法士の役割を委譲した取り組み  
第2回日本在宅医療連合学会大会、2020.06.27-28、オンライン開催
- 足立睦未(理学療法士)  
回復期病棟におけるサルコペニアの評価は複数回転倒を予測する一助となる  
第7回日本予防理学療法学会学術大会、2020.09.27、オンライン開催

※氏名、職員の肩書は掲載、開催時点のものであり現在は変更があります。

診療方針: わたくしたちは回復期リハビリテーション医療と地域連携を通して患者さんの社会参加を支援します。

**錦海リハビリテーション病院**  
〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5  
TEL 0859-34-2300 [代表]  
FAX 0859-34-2303



# KINKAI REHABILITATION HOSPITAL NEWS



## 錦海リハビリテーション病院ニュース

発行: 社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院

TEL: 0859-34-2300 [代表]

E-mail: kinkai-hp@kohoen.jp

URL: https://www.kinkai-rehab.jp

2020 VOL. 12

## SPECIAL 最前線 1

### 錦海リハビリテーション病院

### 感染症と回復期リハビリテーション病棟

#### 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が回復期リハビリテーション病棟へ与える影響

今、日本のみならず世界中が、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策に追われています。この新たな感染症はあっという間に世界中に広がりました。テレビのニュース番組は新たに判明した感染者数をトップニュースで放送し、外出自粛、小中学校の休校から、あらゆる経済活動の停滞へと繋がり、戦後最悪のGDP低下などCOVID-19は単なる感染症という範疇を超えてしまいました。

若年者の死亡は極稀である一方で、高齢者や高血圧、糖尿病といった合併症を有する場合は死亡率は高く、高齢者の感染対策が犠牲者を減らす上で重要です。回復期リハビリテーション病棟は、合併症を有する高齢者の入院比率が高いことに加え、積



感染予防のためフェースシールドを装着し患者さんのリハビリテーションを行う言語聴覚士 岩田久義主任

極的に離床をすすめ、その活動範囲を広げること、多職種がチームで関わることで、感染予防に要する患者さんが多く、濃厚接触となりやすいことなど、感染予防していく上で解決が困難な課題を多く抱えており、実際にいくつかの回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関でCOVID-19のクラスターの発生が報告されています。

#### 「その人らしい生活を最後まで」を目指すために

コロナ騒動がもたらしたもうひとつの問題が、高齢者の生活不活発です。感染を強く恐れるあまりの極端な外出自粛が、高齢者の運動機能の低下を招いてしまっています。COVID-19の健康面への影響は感染症としてのリスクの他にもあるのです。

感染を恐れて外出を控え、じっと家にこもっていたことで下肢筋力の低下から歩行困難となったり、人との関わりの減少から認知面の低下を招いてしまった事例も経験しています。当院に急性期医療機関から転院してこられる患者さんご家族も厳しい面会制限の中、状態もわからず、住み慣れた自宅に果たして戻れるのかという不安を抱えたまま当院にやってきました。COVID-19のためにその人らしい生活を最後まで送るというリハビリテーションの目指す根幹の部分が大きく損なわれてしまっているのです。



リハビリテーション室でのパネルを使用した職員同士の感染防止の取り組み

回復期リハビリテーション病棟では、今後も厳重な感染予防対策を継続しながら、患者さんの機能改善、生活能力回復に必要なリハビリテーションを継続し、住み慣れた場所でその人らしい生活を最後まで送るための努力を継続していかねばならないと考えています。

社会福祉法人 こうほうえん  
錦海リハビリテーション病院  
病院長 角田 賢



## SPECIAL 最前線 2

### 新理事長就任あいさつ

2020年7月より、社会福祉法人こうほうえんの理事長に就任いたしました。国内でも大きな社会福祉法人と称される法人の舵取りを担う責任の重さをあらためて痛感しております。ご利用者をはじめ、お取引先、職員や地域の皆さまが「こうほうえんがあって良かった」と思っていただけよう努力する所存です。

我々は2006年に法人の大切にしたい価値観をまとめた小冊子「互恵互助」をまとめました。この「互恵互助」という言葉は前理事長の造語ですが、現在では理念に近い形で法人内に浸透をしています。この言葉は、お互いが恵みあい、お互いが助けあうという福祉の原点をわかりやすく表していると思います。法人が、そして法人の施設がある地域が、一步でもそういった理想的な状態に近づくよう職員と力を合わせて頑張っております。

現在、世界中でコロナウイルス感染が広がり多くの犠牲者が出ています。お亡くなりになられた方へ心より哀悼の意を捧げるとともに、新たな感染拡大防止について行政機関と協力しながら法人の組織を挙げて取り組んでまいります。企業経済活動はもとより学校教育の正常化と感染拡大防止が並行して行われ、市民生活が平常化することを心より願ってやみません。

一層の混迷が進む中、何よりもありがたいのが地域の皆さまよりのご支援です。引き続きのご支援、ご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

令和2年7月1日  
理事長 廣江 晃



社会福祉法人こうほうえん 廣江晃理事長

## SPECIAL 最前線 3

### 看護部の紹介 介護士のお仕事

#### 回復期リハビリテーション病棟での介護士の仕事を紹介します

私たち介護士は排泄、移乗、移動、入浴、食事、整容、アクティビティなど、患者さんの様々な生活場面において、自分のできることが少しでも増えるよう24時間患者さんに寄り添いながら生活をサポートしています。入院時より患者さん、ご家族から収集した情報を元に、退院後の生活を想定し、日々の入院生活の中で看護師と共にアセスメント(評価)を行い、退院後もより良い生活が送れるようケアプランを立案しています。



当院で働く介護士の集合写真

#### より質の高い介護業務を実践に努めています

病棟で働く介護士17名中15名(88.2%)が介護福祉士の国家資格を取得しており、より質の高い介護業務の提供に努めています。

また、おむつフitter 3級取得者が4名おり、ご家族向けおむつ説明会の開催、排泄に関する家族指導用パンフレットを作成し退院前に家族指導を行うなど自宅退院へ繋がるよう幅広く活動しています。

#### 患者さんへの安らぎの場の提供、機能改善へ向けた毎日のレクリエーションと季節のイベントを開催しています

また当院では患者さんが心安らぎ、一息つける場を提供し、楽しみながら機能改善、向上ができることを目的に、毎日午前、午後にレクリエーションを企画、運営しています。より良いレクリエーションを提供できるように、納涼祭、運動会、クリスマス会など、季節を感じて頂けるようなイベントも開催しています。



レクリエーションでの金魚すくいの様子

#### TOPICS 01 認定看護管理者としての活動 ～鳥取県内の高齢者施設、障がい者施設の 予防的巡回指導および学校寮における衛生指導～

鳥取県における新型コロナウイルス感染症対策として鳥取県と鳥取県看護協会からの依頼を受け、当院の藤井春美副院長(認定看護管理者)を県内各施設へ派遣しました。

このたび、鳥取県、鳥取県看護協会 新型コロナウイルス感染症対応プロジェクトチームからの依頼を受け、県内の感染管理認定看護師とペアになり鳥取県内の高齢者施設の予防的巡回指導および学校寮における衛生指導を実施しました。

それぞれに新型コロナウイルス感染症発生時の予防的対応の実践状況を現地で確認し、疑問点や問題点に対し、実際の具体的な行動対応策や管理的視点からアドバイスしました。今後の感染予防対策のより一層の強化につながることを期待します。逆に、他施設を巡回することで自施設の感染対応を振り返る良い機会にもなりました。

副院長・看護部長 認定看護管理者  
藤井春美



高齢者施設の予防的巡回指導の様子

#### TOPICS 03 「ケアマネジャー向けセミナー」を オンラインにて開催しました

新型コロナウイルス感染拡大防止のため無期延期としていた当院主催「ケアマネジャー向けセミナー」は、6月よりGoogle Meetを活用したオンラインセミナーとして再開し、一区切りとしていた全12回のシリーズ企画を無事終了することができました。

オンラインによるセミナー再開以降、これまで当院へお越しいただいていた近隣のケアマネジャーの皆さんはもちろん、お隣の鳥根県をはじめ、遠くは四国や東京といった県外からも多くのセミナー参加者がありました。

感染収束の見通しが立たないなか、オンラインの活用といった新たな方法も取り入れつつ、今後もリハビリテーション医療に関する情報を地域に向けて発信していきたいと思っております。



オンラインでライブ配信する角田賢病院長  
第9回ケアマネジャー向けセミナー「2020年度診療報酬改定～これからの医療・介護連携～」

#### TOPICS 02 鳥取大学医学部附属病院 医療福祉支援センターとの オンライン会議を開催しています

当院地域医療連携室では、平成21年度より鳥取大学医学部附属病院医療福祉支援センターとの定期連携会議の実績を重ね、病院間の円滑な連携を目指し、患者さんの転院後の経過報告や医療・福祉連携に関する様々な事柄を担当者間で話し合っておりまいました。これまでは対面会議として開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の院内感染防止の観点から、従来のような対面会議を通じた担当職員間の接触は最小限に留めることとし、本年5月からはGoogle Meetを活用したオンライン会議に切り替え定期開催を継続しております。

コロナ禍にあっても担当者間の関係が途切れることなく、患者さんの安心に繋がるような病院間の連携に努めてまいります。



オンライン連携会議の様子

#### TOPICS 04 当院における 「新型コロナウイルス感染症患者発生時の シミュレーション研修」

当院は特定感染症指定医療機関ではありませんが、市中感染が広まった場合、患者対応が必要となります。そこで、入院患者さんが新型コロナウイルス感染症を発生し、複数の職員が濃厚接触者と判断された場合を想定したシミュレーション研修を実施しました。時系列に行動を確認し検討することで、机上では浮上しなかった疑問点が次々と浮き彫りになり、丁寧な検証が職員の不安の解消につながりました。患者さんのケアにおいては、看護職のみでは限界があるため、病院職員が一丸となり職種を超えた業務調整の必要性が課題となりました。最も重要な点は、「濃厚接触者を最小限に抑えること」です。職員一人ひとりが感染予防対策の正しい知識と適切な行動を実践することに尽きます。



新型コロナウイルス感染症対応のシミュレーション研修の様子